銀座の柳

木村荘八

青空文庫

昔の面影を偲ぶやうな今の東京の材料をとの意向だが、存外はづれの「淀橋」といつたやうなところにその「昔の面影」があるやうである。しかし「昔」もこれはまた「大昔」であつて、戦災であたりが広漠となつたために、むかし武蔵野の野川であつた頃にはこの辺かくもあつたらうかと思はせる、早くいへば、地形的回顧を人に与へるものがある。

――それでは余り「昔」すぎるだらう。

七月一日（昭和廿一年頃）、とりあへず銀座へ出て見た。しかし銀座あたりの「昔」は、よしんば、その形骸が備はつてゐようとも、大正震災この方三変四変してゐるから、遠い回顧の跡は無い。まして今度の変で銀座はまた全然新規のものになつてしまふ様子だ。

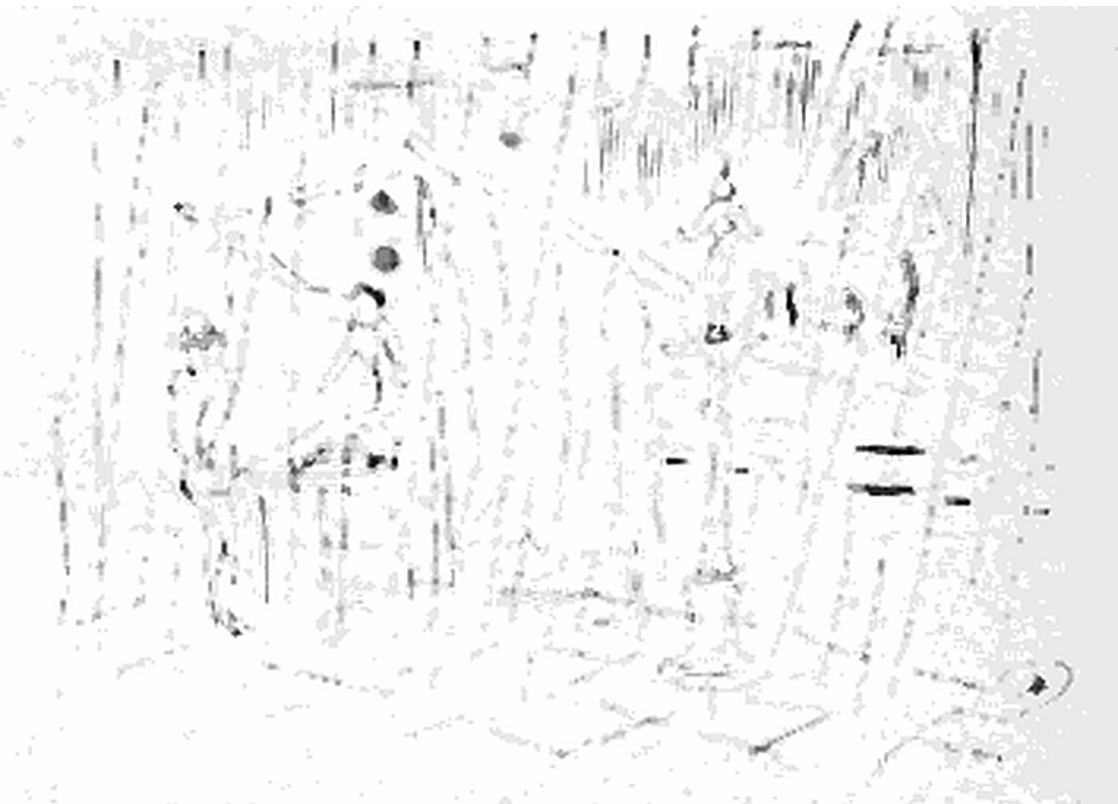
昔は「銀座の夜店」といつたが、近頃ではその夜店が昼店に変つたやうである。店構への様子は前と同じであるが、却つて夜は早仕舞ひになるのは、当分これが戦災後の世相か。

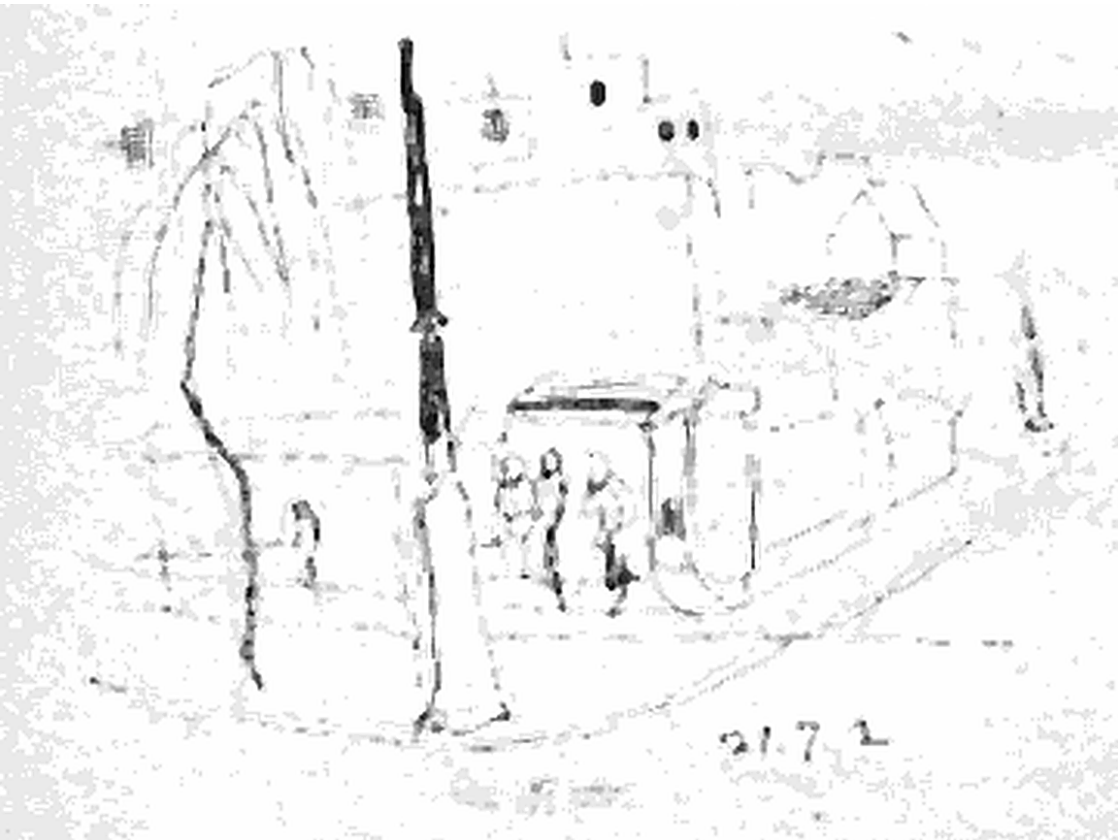
昼頃までは晴れてゐた空が午後から雨模様になつてゐた折柄、一丁目から歩道を歩いてゐるうちに、雨足繁く、夕立になつて来た、露店商人が急に店の取片付けも成らず、テント張りのまゝぬれてゐる午下りの景色は、これまで見かけないものである。斜向うの電車道を越した通りを見ると、片屋根のスマートな、しかし見るからに植民地風な――店舗の飾窓の凹みに、三々五々人が雨宿りに駈込んで空の様子を見てゐる。柳がひよろひよろと雨の中に立つて新芽をつけてゐる。

結局柳だけが昔と変らない銀座風景だつたかもしれない。

青空文庫情報

底本：「東京の風俗」冨山房百科文庫、冨山房
　　1978（昭和53）年3月29日第1刷発行
　　1989（平成元）年8月12日第2刷発行
底本の親本：「東京の風俗」毎日新聞社
　　1949（昭和24）年2月20日発行
※図版は、底本の親本からとりました。
入力：門田裕志
校正：伊藤時也
2009年1月6日作成
2012年5月16日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。




21.7

銀座の柳

木村荘八

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/